

発行元 / 株式会社あつまるタウン田原 所在地 / 愛知県田原市田原町萱町 1
TEL/ 0531-24-2345 HP/ <http://www.tahara-tmo.com/>

街歩ook田原

街あるっく田原

第13号

● **ポジティブに生きよう**

～ハンディキャップがあるから前向きに生きる～

● **本州最大級「汐川干潟を守る」**

ディサービス

● **さんきゅう** ～ありがとうをカタチに～

『ポジティブに生きよう』

鈴木 隆太 さん

ポジティブレザークラフト

オーナーの鈴木隆太さんは1982年生まれの30歳。田原市(旧渥美町)で生まれ育った。7歳の時に母親を亡くしたものの、小学校時代は元気いっぱい得意な子供だった。

17歳の時、職をしており、通勤途中にバイク事故で左足切断の重傷を負う。足を切断することで3日間は落ち込んだが、その後は前向きに考えるようになる。医者からは半年入院と言われながら3ヶ月で退院。半年後、職は諦め漁師となる。その後2006



年2月、以前から趣味で革製品を作っていたこともあり、現在の場所

ショップを開店する。

最近、豊橋・豊川などの小学校で講演をおこなった。きっかけとなったのはお客様として来店された小学校の先生と話をしているうちに「是非子供たちに話をしてほしい」と依頼されたからだ。

子供たちにこんな話をした。『ハンディを持つている子が元気がなくて、みんなが元気づけたり励ましたりしたときその子がいつまでも元気になるなかつたらどう思う?』

「離れていく」(子供たち)

『そうだよね。でもその子が頑張っていたらもともと興味持っていたら付合いたくなるよね。友達が欲しかったら自分が頑張ったり明るくしないとだめなんだよ』

こんなふうに子供たちに前向きに生きることを訴える。

「自分の限界は自分で決めてしまふ。『コンプレックス』と思ったらそれがコンプレックスになり、思わなければ何でもない。言い方を変えれば、足が1本無くなったことで、価値観



や考え方が変わって、人生がますます楽しくなった。」と語る。

障害者として頑張っているとは見られたくない。健常者のなかで、自分の障害を個性として表現している。自分にはしかないものだから、プラスにしたい。足が一本ないぐらいだったら、どんなスポーツにも挑戦できると思う。パラリンピックのニュースの扱い方を見ればわかると思うし、自分もともと健常者だったので、健常者は障害者には興味がないんだと思う。一般の人と一緒に評価されるためには、健常者のなかで勝負しないと駄目なんだ。そう思っ

た。自分は当たり前だと思っ

てやっているけれど、障害者ということ周りが評価してくれるなら、とことん利用してやろうと思っている。

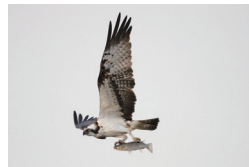
一般の人たちと一緒に車・バイク・ジェットスキー・スノーボードと何でもやってしまふ。少し背伸びをして自分を見せることで、人の輪が広がって自分にプラスになる人間関係を結ぶことができる。

商売をしているので、自分を売ること人との出会いが実現する。自分を認めてもらう為に仕事をしている。夢はもっと人前に出ること。目標はフェラーリを買う事とか。

今後も鈴木さんの生き方や考え方を、周りの人たちに子供たちに伝え続けてもらいたい。



『ポジティブレザークラフト』
〒441-3421
田原市田原町新清谷102-1 タハラプラザ2F
0531-23-7567
営業時間 12:00～21:00 (月曜定休)



ーミサゴー
留鳥
獲物のボラを
ダイビングして捕獲



ーオオタカ成鳥ー
留鳥
鋭い眼光
王者の風格



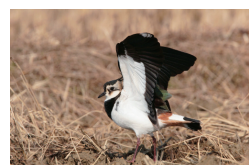
ーチュウヒー
留鳥
V字飛翔が特徴



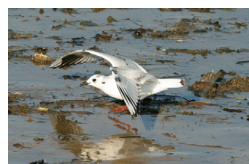
ーハイイロチュウヒー
冬鳥として飛来



ーチョウゲンボウー
冬鳥
カマキリを捕獲



ータゲリー
冬鳥として飛来



ーズグロカモメー
冬鳥として飛来
夏羽で頭部が黒くなる

「本州最大級の 汐川干潟を守る」

●汐川干潟とは

潮が引いてくる干潮時に現れる砂泥の平らな場所で、「干潟」と呼ばれている。田原市吉胡の中部ポンプ場から下流の汐川河川域と、田原湾内の三河大橋より南に位置する堤防に囲まれた区域が、一般に「汐川干潟」と呼ばれている。汐川干潟は田原市と豊橋市に面し、田原市（旧田原町）の開発事業により、面積は1950年代の八分の一に縮小され、約280ヘクタール（ナゴヤドーム60個分）となったが、日本最大規模の干潟である。

また、渡り鳥の種類と数においては、全国屈指の飛来地である。1996年から2001年の調査で167種の鳥類の記録があり、その飛来数及び種数は日本の干潟の中でも群を抜いており、非常に重要な干潟として位置づけられている。



ー汐川干潟より蔵王山を望むー
左手前4羽「オオハクチョウ」 右後方「コハクチョウ」。最近毎年見られる。

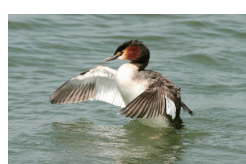
●汐川干潟を再生させよう

干潟には川などを通じて有機物なども流入している。田原市民が住んでいる大部分の地域が、汐川干潟の集水域にあたる。私たちが出した「排水」は、すべて汐川干潟に流れ込んでいると言っても過言ではない。汐川干潟の水質状況を見ると、干潟の西側（田原市側）で水質が淀み、環境が悪化している。

本来、干潟は浄化作用をもっている。干潟に棲息するゴカイやチゴガニなどは泥底に穴を掘り、それを通して酸素が底層に供給される。これによって干潟に堆積した有機物は、底生生物の餌になるとともに、余分なものはバクテリアのはたらきで好氣的に分解されいる。さらに、鳥たちがこれら底生生物を食べ、エネルギーは巡回しているのである。干潟は、私たちの出したゴミをきれいにし、いわば自然の大清掃工場の役割を果たしている。しかしながら、現状は清掃工場も限界にきている。大切な汐川干潟を再生するために、日々のくらしでの汚濁物排水を減らし、ゴミを減らしていくことが大事。そして汐川干潟を見て自然に接することで、環境保全の意識を高めていくことが必要なのではないだろうか。



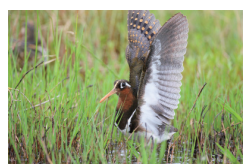
ークサシギー
留鳥



ーカンムリカイツブリー
冬鳥。頭上に冠羽があるのが名前の由来



ーヒケイナー
おもに夏鳥として飛来



ータマシギー
おもに夏鳥として飛来
威嚇しているのかな？



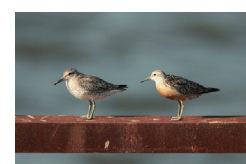
ーツバメチドリー
多くは旅鳥として春秋に飛来



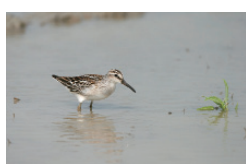
ーソリハシシギ・ダイゼンー
旅鳥として春秋に飛来



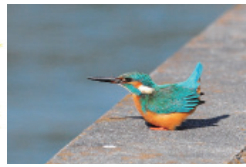
ーカラフトアオアシシギー
数少ない旅鳥として
春と秋に飛来



ーコオバシギー
旅鳥として春秋に飛来



ーキリアイー
旅鳥として秋に飛来



ーカワセミー
留鳥
カラフルでキレイ



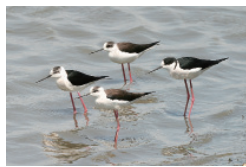
ーアオサギー
留鳥
仲睦まじいカップル？



ーケリー
留鳥
田んぼに仲良し4羽鳥



ートウネンー
旅鳥として春秋に飛来



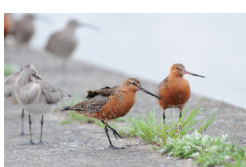
ーセイタカシギー
ピンク色の細長い脚
旅鳥又は冬鳥として飛来



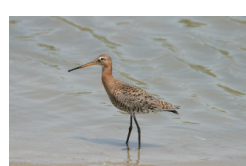
ーエリマキシギー
旅鳥として春秋に飛来



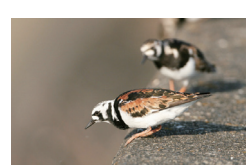
ーウズラシギー
旅鳥として春秋に飛来



ーオオソリハシシギー
旅鳥として春秋に飛来



ーオグロシギー
旅鳥として春秋に飛来



ーキョウジョシギー
旅鳥として春秋に飛来



ー60年前の汐川干潟の地形ー



ー現在の汐川干潟の地形ー

●60年前の汐川干潟（1950年代）

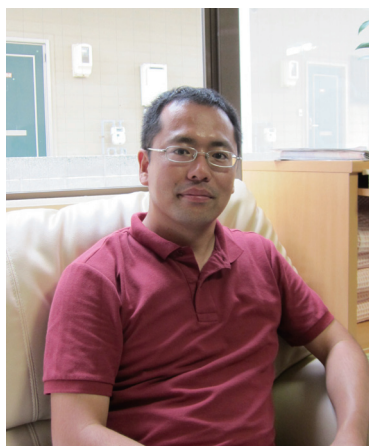
美しい海・豊かな海だった。人と自然が共生する里の干潟だった。吉胡・童浦の人々の生活は半農半漁。水田や畑の肥料を海から入手し、海に入り魚や貝を採りノリ養殖をやっていた。干潮時の干潟では子供達が素手でハゼ・ウナギ・カニ・シャコがたくさんつかめ、満ちた海は自然のプールとなり、子供達にとって格好の遊び場であった。

海岸にはシバナ・ハママツナ・葦が生え、浄化作用を発揮していた。塩性植物群落が分布し、美しい海岸美が保たれ、ハママツナは食べても大変美味しかった。

●1960年代以降の汐川干潟

のどかな里の干潟は1960年代になると急速に変容してしまった。経済成長時代に入り工業用地造成がすすめられ、干潟の埋め立てが日本各地で展開され田原湾もその対象となった。半農半漁生活に見切りをつけ、近代化を進める農業も急変。構造改善事業推進によって大規模化を図る。1968年には豊川用水が開通し作物も大きく変わり、みかん・野菜づくり・畜産用地形成が進んだ。人々の生活が豊かになり汐川干潟に流れ込む水は栄養分豊富になった。干潟の重要な働きである浄化作用は限界に達し、ヘドロが浅い海に残ってしまう。多様な生き物に恵まれた干潟はどうなったか。釣り餌の定番ゴカイ、アサリ・ハマグリ等の貝類、ハゼ・ウナギ等もほとんど見つからず、海藻類も激減している。

（取材協力）
金田紘泰（敬称略） 田原市環境インストラクター
渡辺幸久（敬称略） 東三河野鳥同好会
（写真提供者）
藤目仲生（敬称略） 東三河野鳥同好会



『ありがとうを カタチに』

File
No.9

有限会社 三九〜介護福祉士〜

小笠原 良さん

プロフィール

1976年生まれ。大学・専門学校卒業後、建設会社で修業した後、2003年小笠原建設興業(株)へ入社。2005年5月に小規模通所介護施設「デイサービス さんきゅう(定員16名)」を開設する。

machicco
田原の企業・お店で活躍されている方を紹介します！



平成17年5月、神戸町にデイサービス「さんきゅう」を開設。

デイサービスとは、要介護・要支援状態と認定された方を、福祉車両による送迎、入浴、家庭的な食事、看護師による健康チェック、さまざまな創作活動など、日常生活のお手伝いを日帰りで利用する介護保険のサービスである。小規模だからできる利用者への心のケア、家族への介護の疲れを癒してもらおうという目的もかねている。

開設したきっかけは、小笠原建設に入社後しばらくして、これからの建設業を考えた時に、工事が減っていく時代になってきている。何か他の仕事をとった時に、高齢化社会でもあり介護の仕事をする事を決意。

現在では大久保町に「一休」、江比間町に「補助」を開設し、3店舗経営している。小笠原建設でも経理事務を任されており、忙しい毎日を送っている。施設を利用する

為には、「要介護認定」をうけていないと利用できず、申請をしてから実際に利用出来るまで約1ヶ月もの期間がかり、すぐに利用出来ない事も知っておく必要がある。

「さんきゅう」での現在の利用者は80歳代の女性が9割を占めており、身体の不自由な方や認知症の方で、自分の身の回りの事が出来る方が主に利用されており、介護や支援の区分により利用料金が違う。定員があるため週1〜2回程度のサイクルで利用されている。

冒頭でも紹介したが、ここでの一日の流れは、朝の送迎から始まり看護師による健康チェック・入浴・昼食・レクリエーション・体操・送迎といった流れになっている。季節に応じたレクリエーションもあり、春にはおやつを持ってお花見やイチゴ狩り、夏祭りや運動会等のイベントも多く行っている。

施設内で大変な事は、認知症の方も多くいるため、利用



～施設内の様子～
レクリエーションや体操など手先の運動を採り入れる事でリハビリ効果にもつながる。



者同士のトラブルや、利用者の方に厳しく姑目線でチェックされるスタッフもいるとか。施設での決まりはあるが、人それぞれ生活環境や生まれた環境が違う事もあるが、小規模のメリットを生かし、一人ひとりのニーズにあったお世話をし、帰宅時に『楽しかったよ。ありがとう』と言ってもらえるように心掛けています。笑顔で帰ってもらい、家族や地域、社会も明るくなってくれたら。『今後は安心して自宅で生活できるようなサポートしていける体制が出来たら良いのだが』と思います。

高齡化社会となっている現代、今後より一層利用しやすい制度になる事を願いたい。



～デイサービス～

さんきゅう

窪田原市神戸町大坪 2-1

☎ 0531-24-1539

☎ 9:30-16:45

☎ 毎週土・日(盆・年末年始)

☎ 16人

☎ 10台



◎デイサービス さんきゅう◎

＝大久保町＝
◎デイサービス 一休◎＝江比間町＝
◎デイサービス 補助◎